



第三十三章

酔っぱらいの目線

# 1都1道2府43県〇一期一景

photo: Masashige Ogata, writing & layout: Misao Ogata



PHOTOTECHNIC DIGITAL 2009 NOV.

夫は普段、あまりお酒を飲まない。が、嫌いなわけではない。気心知れた友人やスタッフとの飲み会では、その分を取り返すかのようにノリノリで喋り続け、お酒のピッチも進んでゆく…。

宮城県での仕事は、何度も一緒にチームを組んでいる気心知れた人たちとの撮影だった。ただこの方々、お酒に関しては相当な強者揃い。しかも「撮影=お酒」という図式が、暗黙の了解で成り立っている。だから撮影終了後、一同、仙台の街へと繰り出したことは言うまでもない。

この日の夫は体調もよく、心地よい疲れと、無事撮影が終わった安堵感からか、な

かなかのハイペースで彼らと杯を交わしていた。しかし…予想以上に酔いがまわっていたことに、本人が気づいてはいなかった。前もって、ホテルでマッサージの予約をしていた夫は、まだ盛り上がる彼らを残し、ホテルへと向う。

本人はしゃんと歩いているつもりらしいが、その後ろ姿はまさに千鳥足。真っ直ぐ進んでいるはずなのに、右へ左へと吸い寄せられてゆく。そのうち、足が絡まり合い見事に倒れた。ぼやけた視界、目の前に広がるアスファルトに、一瞬何が起こったのか理解するまでに時間がかかる。それでも、とっさにカメラをかばい、次にシャッター

ボタンを押していた。転んでもタダでは起きぬそのプロ根性（と言ってもいいのだろうか？）に我が夫ながら、苦笑まじりの尊敬を覚える。翌日、夫の両ヒジと両ヒザには、その勲章がしっかりと残っていた。

## Profile

尾形正茂 株式会社シェルパの代表であり、カメラマンとして広告や雑誌の他、CDジャケットやグラビアなどに携わり日々格闘中。

尾形 操 平成17年よりフリーとして独立。現在はMacによる広告などのレイアウト・デザインに携わり日々格闘中。

シェルパホームページ

▶ <http://www.sherpa-jp.com>